



2022 年度
第 49 号

体育市民連帯 ニュースレター

スポーツ倫理センター
強制調査も懲戒もできない
「中途半端な組織限界」
が原因

기한 내 사건처리 현황 (20.9.2~22.8.31, 건수)

구분	사건처리기한(150일) 이내		사건처리기한(150일) 경과		기한 내 처리율(%) (A/A+B+C+D)
	조사완료(A)	조사중(B)	조사완료(C)	조사중(D)	
인권침해	320	121	66	47	37.6
비리	434	188	61	139	43.3
합계	754	309	127	225	40.9

*사건처리기한: 「국민체육진흥법 시행규칙」 제33조의3에 의거 최장 150일
(사건조사30일, 분석사80일, 연동30일)

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

両刃の剣
大学スポーツ選手の
スカウト



一度も戦わずに
金メダル10個…
大学に合格した
怪しい体育特技生



監査の結果
不法、違法
高敞郡体育会長
警察の捜査



W杯「熱気」
熱かったが…
学生体育活動
全世界「下位圏」



01 明日の新聞 2022. 12. 07

[事件処理期限も守れないスポーツ倫理センター]
強制調査も懲戒もできない「中途半端な組織限界」が原因

国会文化体育観光委員会所属のユ・ジョンジュ議員(共に民主党)によると、韓国芸術福祉財団は芸術界の不正慣行を改善し、芸術家の権利義務を保護するために権利侵害申告と法律・心理相談などを提供する芸術人申聞鼓(訳注:朝鮮王朝時代に民が直訴するときたたいた太鼓)を運営する。昨年、芸術申聞鼓の申告受付および相談件数は倫理センターの半分水準だった。しかし、業務担当者は8人で、2倍以上多かった。

ユ議員は「芸術人申聞鼓は相談人材が不足していると判断し2023年に人材を増員する予定」と話した。倫理センター内の人手不足問題はカウンセラーだけでなく、全部分で現れている。

現在、スポーツ倫理センターの定員45人のうち調査チームは相談・調査(体育界人権侵害・不正)17人、法定義務教育(体育指導者および性暴力など暴力予防教育)1人、実態調査(選手・指導者および審判など実態調査)1人、法定システム(懲戒情報システム・統合申告管理システム)2人の計21人で構成された。

法定義務教育の場合、担当者1人が約30万人余りの教育履修管理をする。また、担当者1人が約2万人余りを対象に実態調査を実施した。法定システム担当者2人は9762機関の情報収集を担当している。事情がこうなので調査チームの8月超過勤務時間を見れば平日202時間、週末147時間に達した。平日の夜勤でも足りず、週末まで超過勤務が続くのが実情だ。

倫理センター関係者は「初創期定員26人から45人に拡大したが、すべての苦情を消化するには人材と予算が不足している」と話した。

事後管理も絵に描いた餅だ。この2年間、倫理センターが処理した事件534件のうち333件(62.4%)は却下された。却下処理理由は本人または申告人の申告取り下げが主となる。

体育界と政界では加害者との合意・協議や、協会や所属チームの圧力が作用する事例が相当数含まれていると疑う。倫理センターの事後調査が必要な部分だが、現在の調査人材では「絵に描いた餅」という指摘が出ている。

◆数ヶ月間の出席要求に応じないことも＝ 倫理センター設立は2019年スポーツ界のMeTooとチョ・ジェボム事件、2020年6月トライアスロン(鉄人3種)国家代表チェ・スクヒョン選手が極端な選択をした事件などが発生し、スポーツ界内部で自省の声が大きくなり議論された。以前にも大韓体育会所属の「スポーツ人権センター」があったが、内部不正調査・懲戒の限界のために「身内をかばう」論難から自由ではなかった。

市民・社会団体は政府に独立性、専門性、自律性を備えた法人機構設立を要求した。その結果、2020年8月、スポーツ分野の不正を独立的に調査する「スポーツ倫理センター」が設立された。

国会と政府は倫理センター設立に合わせて指導者の（性）暴力などスポーツ不正を知った場合、必ずスポーツ倫理センターに申告するよう国民体育振興法などの法令を整備した。また、直接捜査権を付与するために「特別司法警察制」導入を推進した。

しかし、司法警察官制度は関連法案が国会を通過できず施行されずにいる。

事情がこうなので強制調査権がないという点を悪用した加害者が調査に応じずに時間稼ぎに乗り出す事例も発生する。実際、倫理センターに人権侵害申告が受け付けられた A 氏の場合、4 回にわたって出席要求を受けたが、7 ヶ月間、一度もこれに応じなかった。

正義党のリユ・ホジョン議員は「スポーツ倫理センターは体育界の不正および人権侵害を調査し加害者処罰の現実化、被害者の回復を助けるための総合的な支援のためにスタートした」とし、「最も基本的な権限である調査権からきちんと認めてこそ、今よりさらに役割を果たせるだろう」と明らかにした。

◆加害者だけに寛大＝ 倫理センターがこのような難関を乗り越えて調査を終えても懲戒というもう一つの山が再び目の前を塞ぐ。

スポーツ不正に対する懲戒は、さまざまな段階を経て行われる。まず倫理センターが初めて申告を受け付けた後、調査を進める。調査の結果、懲戒が必要だと判断されれば、文体部に懲戒要請・勧告事項を報告する。該当報告を受けた文体部が大韓体育会にこれを伝達すれば傘下各種目団体(協会・連盟)が「スポーツ公正委員会」を開き最終的に懲戒強度を決め処分を下す構造だ。

このような事情で倫理センターで勧告した懲戒と実際の懲戒水準に差がある場合がよく発生する。大韓体育会傘下の協会や連盟などの種目団体が、人権侵害や不正を犯した体育界関係者に対し、軽い懲戒を乱発しているという指摘が出ている。

設立以後、8 月まで倫理センターが種目団体に懲戒を要求した不正件数は 111 件だ。しかし、種目団体が最終懲戒を下したのは 44%の 49 件に過ぎない。

これら 49 件のうち倫理センターの勧告より低い懲戒を受けたのが全体の半分ほどの 24 件（49%）に達した。種目団体は倫理センターが重懲戒を要求した 30 件のうち 13 件をけん責、警告、注意措置で終えた。特に倫理センターが懲戒を要求してから 1 年以上懲戒強度を決定しなかった件数が 8 件、6 ヶ月以上懲戒を先送りした事例も 20 件に達した。

金スンス国民の力議員は、「加害者に対しては寛大でありながらも、本当に苦勞して通報した被害者に対する保護は非常に不十分だ」とし、「そのため、加害者はそのまま体育界に残って威勢を享受しているが、通報者はいじめられたり、結局体育界を離れる悪循環が繰り返されている」と指摘した。金議員は「身内をかばうことが蔓延し憂慮される」と強調した。

倫理センター設立趣旨は体育界内部の温情主義、閉鎖性、派閥主義を打破し独立性を確保することだが、強制調査・懲戒権がないため、事実上犯罪被害対応に有名無実な機構に転落しているという指摘が出ている。市民・社会団体の一部では世論に押されて設立したが、初めからエリート体育界の反発を考慮して事実上「中途半端な組織」に転落させようとする意図があったのではないかという疑いもある。

◆離職率 20%、専門性蓄積に赤信号＝ 一方、体育界と政界などでは劣悪な処遇による頻繁な離職で倫理センターの専門性蓄積が難しくなにかねないという憂慮が出ている。

倫理センター職員の平均賃金は文体部傘下の関連機関対比 75%水準だ。体育界の人権侵害、不正調査の場合、全数直接調査が原則であり、職員の時間外勤務と休日勤務が多いが、超過勤務手当でもまともに支給されない。それだけでなく退職給与法にともなう退職充当金積み立てもまともになされていない。ここ

に調査室とトイレなどを除けば職員1人当たり使用面積が6.6㎡(2坪)にもならない劣悪な勤務環境まで重なり倫理センター職員の退社率は20%に達する。

倫理センター関係者は「専門人材確保に困難を経験している」とし「倫理センターに対する文体部の積極的な支援が必要だ」と話した。

出典：http://www.naeil.com/news_view/?id_art=444129

02 ニュースフリーゾーン 2022.12.09

両刃の剣、大学スポーツ選手のスカウト



アマチュアスポーツの最高峰であり、プロ入り前の選手たちが経験する最後の舞台である大学スポーツ。2年間延世大学校スポーツマガジン記者として働きながら見て学んだ大学スポーツの残念だった点と発展方向を論じてみようと思う。果たして大学スポーツは以前の人気を取り戻し、反騰できるだろうか。

口数も多く、トラブルも多かった大学選手選抜。2010年を前後に大学選手選抜過程で特に金品授受に対する疑惑が多く提起され、その中にはヤン・スンホ元プロ野球ロッテ監督も含まれるなど大学スポーツ界以外にも大きな衝撃を与えた。リーグの競争力を取り戻そうと努力した大学スポーツに大きな打撃を与えた事件だった。

それから約10年が経ち、現在大学選手選抜制度は過渡期に置かれている状況だ。過去のように事前スカウトによって選手たちが願書を出す前に自分が行く学校を100%知ることはできない状況だ。その代わりに、監督が入試過程の面接に参加し、選手選抜にある程度の力を行使する場合もあり、監督とコーチの影響なしに入学査定官によって入試が行われる場合もある。後者の場合、選手たちの大会成績、実技でのパフォーマンスが彼らを表す指標になる。このような混在した状況の中で正当に選ばれず、被害を受ける選手が現れるしかない。例えば、Aという選手が監督が選抜に影響を及ぼす学校で望むスタイルではないと同時に、統計で真価が全部現れない選手なら、まともな評価を受けられないまま不利益を受けるしかない。もちろん、どの選抜制度も本来の価値を認められず被害を受ける人がいるが、このように大学ごとに異なる制度を持って選抜することによって発生する問題は最小化しなければならないと思う。

一時、入試関連の問題が多く発生すると、多くの大学は該当種目の指導者の影響力を排除する方向に制度を変更した。しかし、現場ではあまりにも性急に、単に表面的にそのような方式を選んだのではないかという批判が出ている。最も大きな問題は大学別に「チームカラー」を失いつつあるということだ。プロスポーツと違って、大学スポーツは4年という選手たちの循環時期が決まっているため、特定選手を中心にチームを構築することは不可能だ。そのため、それぞれ確固たるチームカラーを持っている。しかし、監督の声なしに選抜された選手たちで構成されたチームでチームカラーを作り出すのは容易ではない。単にリーグの競争力を落とすだけでなく、大学の選手たちが4年間自分に合ったプレーをすることができず、技量が止まるという批判もある。

皮肉な点は、監督が選抜に影響を与えることができないにもかかわらず、監督は着実に高校選手たちと接触しなければならないという点だ。該当大学に志願するように頼むスカウトの過程がまだ残っている点

だ。もちろん監督が影響を行使できないため金品授受などの疑惑から自由だが、いざ選抜以後はチームにとっても選手にとっても否定的な結果を生む恐れがある。特に、大学に対する選択権を持つ上位圏の選手たちは、合格をある程度保障できる監督が依然として選抜に関与する一部大学への進学を好み、大学リーグ戦力の両極化をもたらすこともある。

最近では東国大学野球部が実技評価の際、東国大学と関係のない野球人を含めることを監督とコーチ陣が要請し、突破口を探している。しかし、狭いスポーツ界で志願者についてよく知っている状況で、野球人の評価が単純に実技評価に依存できるのか、野球人と監督、コーチ陣との関係が全くないのかなど実効性について疑問を残す。むしろ不正を防ぐための監督とコーチを排除した選抜の方向性が選手選抜を日陰化するのではないかと疑問に思う。

では、選手の入学不正問題が多かったにもかかわらず、現在は特に問題なく、はるかに多くの選手を管理するNCAA（訳注：全米大学体育協会）はどうだろうか。NCAAは決められた期間中、協会の許可を受けた人数だけが高校選手のリクルートに参加できる。競技場以外でどのような方式と場所で選手とコンタクトできるのか、また全て規定で定めておく。すなわち、監督とコーチの意見を全面的に反映するものの、すべてのチームに同等の過程を与え、透明に公開する戦略を取ったのだ。また、選手たちが上位大学に集まることを憂慮し、学校ごとに全額奨学金を与えられる選手の数に制限を設けた。韓国で選抜する選手たちが入試前に内定したという問題を、内定ではなく一つのドラフトの場にして解決した。

もちろん学校、リーグの規模などを考えた時、これを同じように学校に適用するには難しい点がある。しかし、混在した制度をNCAAのように統合管理してくれるような団体は必ず必要だ。最近、KUSF（訳注：韓国大学スポーツ協議会）が、体育特技者たちが公正かつ透明に選抜できるように大学入試情報の接近性を高める学生選手選抜正常化事業を展開している。これに対し国家団体次元で「学生選手データ構築」と「大学入試制度ガイドライン提示」等、より果敢な方向で入試制度改革に力を入れてほしい。

NCAAでは選手の成績だけでなくドーピングなど選手資格を管理する役割を兼ねている。大学スポーツも最近ドーピング、校内暴力など否定的なイメージによって苦勞しただけに、該当事業は大学スポーツ内外に大きく役立つだろう。追加で各種目協会と円滑な協力が可能ならば、KUSFで推進する体育特技者競技実績証明書の改善とも軌を一にすることができるだろう。また、各大学の入試制度に対するガイドラインを提供すれば、混在した制度の中心を固めることができるだろう。毎年教育部では「大学入学選考基本事項」を発表することにより学生たちの資料をどのように使うのか、どの範囲内で評価しなければならないのかに対するガイドラインを提供する。このように韓国の大学スポーツもNCAAのように独断的な方向ではなくても一定部分中心を担ってくれれば、今この過渡期を入試制度がさらに発展する方向に持っていけるだろう。

明らかに問題が多かった過去の入試制度に比べ、改善の意志とともに肯定的な方向に大学が進んでいる。ただ、良い意図で始まった変化が意図しない方向に選手たちの公正な機会、成長の機会を剥奪しないよう、絶え間ない関心と変化の試みが必要だ。

出典：<http://www.newsfreezone.co.kr/news/articleView.html?idxno=429500>

一度も戦わずに金メダル 10 個…大学に合格した怪しい体育特技生



小学3年生の時に運動を始め、今年高校3年生になったサンボ国家代表A選手は最近、龍仁大学校体育優秀者特別選考に志願した。高校3年間、国内大会男子部だけで5回も金メダルを獲得し、今年是国家代表選抜戦で優勝し、最年少で世界選手権大会にも出場したので合格に自信を示した。

しかし先月、A選手は2人を選抜する武道スポーツ学科入試の結果、期待していた合格証の代わりに「予備番号1番」を受けた。自分より多くの賞を受賞した選手がいたからだ。A選手の両親は12日、聯合ニュースに「2人の合格者とも女子選手だ。特に合格者のB選手は一度も戦わずに金メダル10個を取った」と情報提供した。激しい競争の末、金メダル5個を獲得したA選手が、単独出場のおかげで試合も行わず自動的に金メダル10個を獲得したB選手に押されたのだ。

ロシアの伝統武術であるサンボは、直接的な打撃が可能かどうかによって、スポーツサンボ（打撃不可）とコンバットサンボ（打撃可能）に分けられる。

B選手は高校2年生の時の昨年、国家代表選抜戦と全国選手権大会の該当階級に出場し、スポーツとコンバットサンボ共に金メダルを独占した。一人で出場して実戦なしに自動的に獲得した金メダルだった。今年も同じ方法で金メダル6個を追加したが、一つの大会では高等部と一般部まですべて出場し、スポーツとコンバット種目で計4個を獲得した。これもやはり「一人出場」のおかげだった。

A選手の両親は「格闘種目であるサンボは男子選手の競争がはるかに激しいが、性別考慮なしに受賞実績だけで当落を決めたのは不当だ」という立場だ。特に「競技に出場してもない選手に金メダルを与え、このメダルが大学入試に反映されるのは理解し難い」と強調した。

これに対して大韓サンボ連盟は「該当階級に一人で出場するのは選手のせいではないと判断し、該当選手にもメダルを与えることにした」と説明した。代わりに「大学に提出する競技実績証明書備考欄に全体出場選手が何人だったのか表記し入試に反映するよう措置した」と釈明した。大韓サンボ連盟は「近いうちに会議を通じて受賞規定を補完するかどうかを議論する計画だ。該当保護者も招待した」と付け加えた。龍仁大学側は、「学生簿20%と受賞実績80%を反映し、該当学科の合格者を選抜する」

入学査定官にまつわる論難を遮断するために受賞実績だけを反映する定量評価を導入したが、「一人出場金メダル合格者」という問題が発生するか予測できなかったという立場だ。ただ、大韓サンボ連盟が発行した競技実績証明書に表記された階級別出場選手数は合格者発表以後、遅れて確認したと認めた。

龍仁大学は、「A選手が優秀な選手だということを今回知ったし、残念に思うが、すでに合格者が発表された今のところ、(合格者2人のうち)登録を諦める人がいないと入学が難しい状況だ」と話した。

制度の弱点を掘り下げた合格者が出たが、入試規定は2年前にあらかじめ確定するのが原則であり、2024学年度入試でも同じ問題が繰り返されることもありうる。

これに対して龍仁(ヨンイン)大学は、「(現行制度が)議論の余地があることを確認したので、2025学年度の入試について再議論する予定だ」と明らかにした。

出典：<https://v.daum.net/v/20221212163106740>

04 ニュース 2022. 12. 12

監査の結果、不法、違法、高敞郡体育会長、警察の捜査



全羅北道高敞郡が体育会事務局長採用手続きの不適切事例と関連し、体育会長を警察に捜査依頼した。

郡は12日、体育会長の権限を超えた行為と業務妨害が疑われるとし、規定を無視して一方的に人事権限を超えた体育会長の行為が業務妨害事由に該当する可能性があるため、捜査機関に捜査を依頼したと明らかにした。

先立って郡は民選体育会の財政健全性と運営透明性などを確認するために特定監査をした経緯がある。

監査の結果、高敞郡体育会のA会長は10月、理事会の同意や上級団体である全羅北道体育会の承認なしにB事務局長を採用した。その後、B事務局長は約1ヵ月以上、正常に体育会事務をしながら勤務しており、10月25日には給与を受け取ったりもした。

しかし、A会長は突然会長職権でB氏の職務を停止し、人件費を支給せず、公的な団体の採用規定（体育会定款18条、体育会事務局規定第63条第2項）を無視した。

体育会規定と行政手続き法第21条にも体育会長が職権で事務局長職務停止ができないよう規定されている。

A会長のこのような行為は、B事務局長の存在が22日に予定された民選2期体育会長選挙で不利に作用するという作為的な次元で起きたことだという疑惑を受けている。

一方、郡の監査結果、A会長のB事務局長に対する不適切事例と共にキャンプ訓練補助金と役員会費の不適切使用、道民体育大会参加団服購入過程の「地方契約法」違反、道民体育大会訓練費未精算などが摘発されたりもした。

出典：https://newsis.com/view/?id=NISX20221212_0002119817&cID=10808&pID=10800

05 KBS NEWS 2022. 12. 11

W杯「熱気」熱かったが…学生体育活動全世界「下位圏」



[アンカー]

最近のようにワールドカップが訪れると町中が賑やかで、学生の間でも応援の熱気が熱いですよね。ところが、ご存知のように、私たちの生徒たちが入試中心の教育のせいで、学校での体育活動が非常に不足しているのが現実です。世界で最も低い水準にとどまっています。

ユン・ナギョン記者が取材しました。

[レポート]

室内体育館でバドミントンを習う高校生たち。

高校1、2年生は週に2時間、高校3年生は週に1時間ずつ体育の授業を受けていますが、いつも残念な気持ちを感じます。

[高校2年生:「勉強もしなければならぬし、学業と並行しなければならぬから身体活動をする機会が少ない気がします。(体育の時間も)週に2時間しかないのです、時間的にも少なすぎると思います」
教育課程改編で2024年からは高校2年生の体育時間も1週間に1回に減ります。

[イム・ソン Chol/高等学校体育教師:「我が国は他の先進国に比べて放課後にスポーツができる機会があまりにも不足しています。体育の授業だけがほぼ全ての…80~90%が体育の授業以外には(体育活動が)ない子供たちもとても多いです。残念ですね」

実際、ある国際学術団体で全世界57ヶ国の学生たちの体育活動指数を比較した結果、韓国の学生の実際の体育活動指数はDマイナスと現れました。

フィンランドがAマイナスで最も高く、日本やアメリカなどはBマイナスで上位です。

反面、学校体育政策指数はAでフィンランドと共同1位を占めたが、理由は政策の個数が42個で最も多かったためです。

[チョン・ヨングァン/延世大学スポーツ応用産業学科教授:「政策が実効性があるのかという部分では、まだ疑問符だと言えます。(学生たちが)自ら身体活動を探すのはかなり難しいということです。それで学校中心の身体活動増進政策がもっとたくさん出てこなければならぬのではないか...」]

専門家たちは実効性のない政策拡大に集中するよりは、学校体育の時数を増やし授業の質を高める方向に政策転換が必要だと助言します。

KBS ニュースのユン・ナギョンです。

出典: <https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=5621471&ref=A>

06 週刊スポーツニュース

申し訳ありませんは禁止! 誇らしい選手たちと最後まで一緒に…夜明けの応援風景

https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1070375.html

国民体育振興公団、栄州市有望学生選手奨学金伝達

http://www.lawissue.co.kr/view.php?ud=20221212172552108607f28b58b8_12

ぼたん雪に打たれながら最後の光化門応援... 「選手たちのおかげで幸せ」

https://imnews.imbc.com/replay/2022/nwdesk/article/6433880_35744.html

東亜大塚、ユース野球選手に2000万ウォン相当の後援

https://newsis.com/view/?id=NISX20221212_0002120072&cID=13001&pID=13000

ゴルフゾーン「2023 ゴルフゾーン後援選手調印式」、世界的なゴルファー育成に乗り出す!

<http://www.sportsseoul.com/news/read/1185103?ref=naver>

釜山市教育庁、10日「教育監杯学生スケート競技大会」開催

<https://sports.donga.com/article/all/20221209/116926295/2>

「負けたけど一生懸命プレーした選手たちに満足」光州でも熱い応援熱気。

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20221206013200054?input=1195m>

KBOの暖かいドリムスタート、矯正施設および社会福祉施設の学生たちの夢を応援した。

<https://www.starnewskorea.com/stview.php?no=2022120813513387061>

スポーツ倫理センター事件処理の遅れが深刻

http://www.naeil.com/news_view/?id_art=444209

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援をお願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>